

「神様からのラブレター」

～ 愛されたあなたを愛する ～

イザヤ43:4 マタイ22:37～39

■ 頭では分かっているだけになっていないか

私たちは、これはして良いことなのか、それとも悪いことなのかは分かっています。では良いことだけをして生活できているでしょうか。悪いと分かっていることをしないでしょか。私たちは悪いと分かっているでも直すことができず、正しい事を知っていてもすることができない自分と日々の生活の中で向き合っています。古い性質は良くなることを妨げます。それは私たちが過去に受けてしまった傷や失敗により、自分で自分を守る行いをするようになってしまいました。なぜ自分で自分を守るようになったのでしょうか。それはアダムとエバが罪を犯した時から始まりました。自分を守ってくれる存在である人が責任転嫁をしました。この傷によって自分を守るのは自分という考えになっていきました。それ故、自分の罪というものを認めることができなくなったり、ありのままの自分を愛したり受け入れたりすることができなくなりました。だんだんと自分を尊ぶ心である自尊心が低くなり、自分を守るプライドだけは高くなっていくようになりました。しかし神様は私たちが愛しているのです、その傷ついた部分を直そうと神によって集められたのです。教会とは宗教ではなく、私たちの生き方が本来のすばらしい姿へと変わるところなのです。私たちは神様に愛されています。しかし私たちは神様が愛して下さっているにも関わらず、同じ愛で自分が自分自身を愛していないということです。私たちは周りの人たちには愛することが一時はできるかもしれませんが、自分を愛する愛について考えてみたいと思います。

■ ①聖書の愛で愛する～ spoil ではだめ！

まずはこの「spoil」という言葉は「甘やかす、だめにする」という意味があります。私たちは自分を愛する方法としてご褒美を上げているやり方があります。何か終わると「お疲れ様～、よくやったな～、大丈夫～」なんて言いながら甘いものを食べたり、休んだり、買い物したりと人によって自分を甘やかしてしまうことは様々なかたちであると思います。よくよく言葉の意味を考えてみるとそれは自分をだめにする愛し方なのです。親が子どもを甘やかすのは何がいけないのかということ子どもがだめになるからです。例えば昨今大きな話題となっている学級崩壊。その一因として甘やかされた子どもたちにあるのではないかといわれています。自分の願いを何でも聞いてもらえる環境で育ってききました。そうすると自分の願いを否定されること、自分を我慢することができなくなるので、集団活動ができなくなっていくのです。私たちはすべてを揃えてすべてをあげていくのです。甘やかしていると、正しいことを教えることができなくなってしまう。

■ 自分自身をコントロールできているでしょうか

では、私たちは自分自身に対してどのように愛しているでしょうか。気をつけなければならないことは自分自身を愛せない人は自分を甘やかしていくということなのです。私たちは自分をコントロールし、大切にすることが自分を愛することにつながります。ですからコントロールを失い、感情的に行動することは本当の意味で愛していないこととなります。私たちは自分がどのような存在であるのか知っていますでしょうか。私たちが力強く生きていくために必要なものは愛されているという自尊心が必要です。それを知るために、確認するために、毎週教会に来ています。私たちは自分を正しい聖書の愛で愛していく時に力が湧いてくるのです。その力が足りない人は周りに依存して生きていくようになります。そうするとお互いに倒れてしまうのです。その時、私たちは支えてくれなかったと文句を言うようになるのです。でも不完全であっても親子の愛のように大きく、深い愛であれば支えてくれることが多いと思います。私たちは愛されたようにしか愛を流せません。ですから親や周りから愛が受けられなかった場合、また周りから傷つけられてきた場合、私たちは愛することよりも傷つけてしまうことが多くなります。

■ 本当の愛は神様から

それは自分を守りたいという思いから、周りに依存しながら生きるのですが、相手も背負いきれないために関係が断たれていくように感じ、それを裏切られたと認識してもっと自分を傷つけていきます。聖書には鼻から息の出るものに頼ってはならないと書いています。私たちが鼻から息のでない神様に頼るしかないのです。神様に頼り、愛されていることが分かるから私たちは周りに愛を流し続けることができるのです。また私たちは人と比較してしまうのです。それは罪です。神様の作品であるなら比較対象ではありません。神様がそれぞれ違った目的のために造っているからです。ですからあれができる、できないがそれぞれあって当然です。そしてそれで素晴らしいのです。ですから造られた目的を知らないことが比較の始まりです。造られた目的は私たちが造った神様に聞くしかありません。また自分を客観的に見る必要

もあります。そのために教会があります。日曜日に共に礼拝し交わりを持つことは、神様と自分が向き合い、自分を見るために交わりが必要なのです。

■ 神様の創造された素晴らしい自分を認める

自分を愛するとは、あなたがあなた自身で受けとれる「愛」を、あたりまえに「受けとる」ということ。あなたがその愛を「受けとる」ことを選択し、自分をいためつけようとするのをやめる、ということが、「自分を愛する」ということ。あなたがネガティブな考えを続けようとすることや、望みの方向に向かわずに我慢しようとするのは、あなたが最も愛すべき自分を「いじめよう」とする不可解な行為である。あなたが愛するべきは、あなたという「存在」であり、あなたの心や身体を超えた「人格」そのものである。ということになります。私たちの人格そのものが愛されているのであれば、行為によって可否が問われる必要がありません。人格を愛していないと行為を否定された時に人格を否定されたように感じてしまうことが問題なのです。私たちの人格と行為とは別に考えていきましょう。私たちはベストな行為をする方はいません。唯一の方がイエスキリストです。イエス様ならどのようにするのかからベストな行為を学んでいきましょう。

■ ②投影はしない！！

これはどういう意味でしょうか。自分を相手に写すことです。相手の嫌なところ、腹が立ってしまうところというのは自分の嫌なところと似ているからでないでしょうか。コンプレックスがある人は相手を見る時にコンプレックスがあるところ見てしまいがちです。そうすると相手が嫌な人として印象に残っていくようになります。相手を指さして「あの人は○○だよな～」という人は自分もそうかもしれないと自分を見つめてみましょう。これが相手を指摘してしまう行為これが、罪の根源であり責任転嫁へとつながっていくのです。普段の生活の中で順風満帆な時は問題が起きないかもしれませんが。しかし窮地に追い込まれたりすると悪い考えが出てきてしまうのです。私たちクリスチャンは周りの人の問題点として感じていることが自己を投影したことに基づかなければ良いのです。周りの人が良くなってほしいと聖書の愛を土台として出てくるのであれば良いのです。私たちは投影してみてしまうことの原因は自分の傷です。この自分の傷を治せる神様のところで直してもらっていくしかないのです。ある人は、私はだめだと思っている人もいますし、自分は傷ついていても大丈夫だと思っ生きているのです。ですから私たちが神様と仲直りをする必要があります。素直に傷ついて自分の愛の認めるしかないのです。辛かったことや、失敗したと思っていることがあると思います。私たちは自分を責めて続けています。今日、神様と仲直りをするために素直に神様の元に出たいと思います。そして神様の前で素直になった時、自分の素晴らしさを受け止めることができます。

■ 自分を愛するために

～神様に愛された愛を流す！！～

この世で億万長者になったクリスチャンの話です。「100万ドルで愛が買えるなら安いものだ。しかし、現実には誰かに愛されたいと思ったら、あなた自身が愛される人物になるしかない。見返りを求めてしまうのは人間の性だが、あなたが何かを与えなければおそらく、あなたには何も与えられないだろう。私の知り合いの中で望みの愛を手に入れた人は、誰もが自分が成功者だと思っている。誰にも愛されずに満足感を得られる成功者など、私は想像することができない。」愛は流さなければ返ってこないと思っ生きているのです。この世で成功したかのように見える人でもこのように愛を流すことを伝えているのです。神様は10を受けたとしたら10流しなさいと言っているではありません。10受けたのであればその内1でもよいから流しなさいと伝えているのです。愛は種まきです。時かないと返ってくることはありません。私たちはキリストの体として不必要な部分はあります。ですから自分の存在価値を認めなければいけません。イエス様はいつもそのように教えているのです。しかし人間だけがそれを否定しています。私たちが無価値なものであったらならキリストの十字架は無駄です。いのちをかけてまで救いたいと思う価値があるのです。私たちはそれほどまでに愛されたのです。ですから私たちは傷ついたまま、劣等感、比較の目をそのままにして生きていきますか。今日、もう一度神様に愛されていることを心から感じていきましょう。そしてその愛で周りの人に流していきましょう。その愛のバトンを多くの方に渡していきたいのです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』まずは自分を愛するところから始めてみましょう。

(要約者:平澤 一浩)